

資料別紙

「旧松川青年の家」後利用に関する方針の見直しについて

産業観光課・生涯学習課・まちづくり政策課

1 これまでの主な経過

H29年3月	松川青年の家閉所、県から町に施設譲与
4月	県と施設改修費補助金に関する覚書締結 (H29~31の3年間に147百万円上限に改修・解体等経費を補助)
11月	議会委員会・全協(活用方針(案)提示)
H30年7月	議会全協(改修デザイン・整備費試算提示) ※費用多額等の意見多数、再検討とした。県と覚書の期間延長の協議をする旨報告。
12月	議会全協(後利用の政策決定スケジュール提示)
H31年3月	補助事業の期限3年延長(R4まで)を県が承認
4月	町長選挙

2 施設の現状

- 研修棟(本館)及び宿泊棟の躯体(RC構造)は耐震強度、耐久性に問題ないが、屋根の劣化(雨漏り)が激しく全面的な葺き替えが必要。また、地下重油タンク等設備の老朽化が激しい。
 - 体育館は、H29に耐震補強、照明改修済みで、今後の利用に支障ない。
 - RC構造のため、改修して活用する場合間取り等の制約が大きい。
 - 施設の改修に多額の費用が見込まれる。
 - ・観光施設に全面改修(H30.7月提示)する場合の費用:約3.6億円
 - ・施設内容を変えず、改修のみする場合の費用:約1.4億円(内5千万は屋根の全面補修費用)…H28当時の見積もり
- 《参考》現行施設と同じものを新築する場合の費用:7億円程度

3 今後の利活用方針（案）

（1）現在の施設

- 施設全体の改修を断念し廃止する。研修棟（本館）及び宿泊棟は取り壊し、体育館は現施設を残して活用する。

（2）後地利用に関する方針

- 一帯をツリードームを活用した観光エリアとして、最小限の投資での整備を検討する。
 - ・ 現在旧青年の家施設を使用して、ツリードームのバックヤード（食材提供、荒天時対応等）、DMO 事務室について、体育館の改修や簡易な建物の新築等を検討。
 - ・ 体育館は、観光施設としてツリードーム等との一体的な運用を検討する。
 - ・ キャンプサイト(コゲラ、アザミ)は、存続する方向で検討する。

※ 本方針について議会ので承が得られれば、地域や関係団体、県への説明を行い、具体的な跡地整備計画を早急に策定する。